



認知症と 共に生きる

保健福祉・こども・子育て相談センター
0558-76-8010

運転と認知機能の関係

「ブレーキとアクセルを踏み間違えた」「逆走した。」近年あいつく高齢ドライバーによる事故。交通安全協会大仁地区支部によると、令和2年の支部内における『65歳以上の高齢者が原因となる交通事故』は206件で全体の約39・4パーセントを占めました。

自動車の運転には、「知覚・認知」状況判断・意思決定「操作行動」の複合的な能力が必要です。年をとるにつれ、それらの能力は低下し、事故の原因となると考えられています。

9月は世界アルツハイマー月間です。運転にも必要な「認知機能」が、さまざまな原因により低下する「認知症」について、考えてみませんか？



認知症について理解しましょう

認知症の人は、どうなっていくかわからない不安の中で苦しんでいます。

認知症は、さまざまな原因で脳の細胞が壊れたり、働きが悪くなったりするために起こります。失われる機能は一部であり、周囲の理解と適切な手助けがあれば、残された能力で生活することが出来ます。

どんな気持ちで、何に困っているのかを理解してもらうことで、認知症の人は、不安が和らぎ、生活しやすくなります。「人としてどう接するか」という視点が大切です。



認知症サポーター養成講座を開催します

認知症の症状や予防、認知症の人との接し方などを学び、自分のできることを考える講座です。市内3地区で開催しますので、気軽にご参加ください。

とき／①9月17日(金)10時～11時30分 ②9月27日(月)14時～15時30分 ③9月28日(火)10時～11時30分

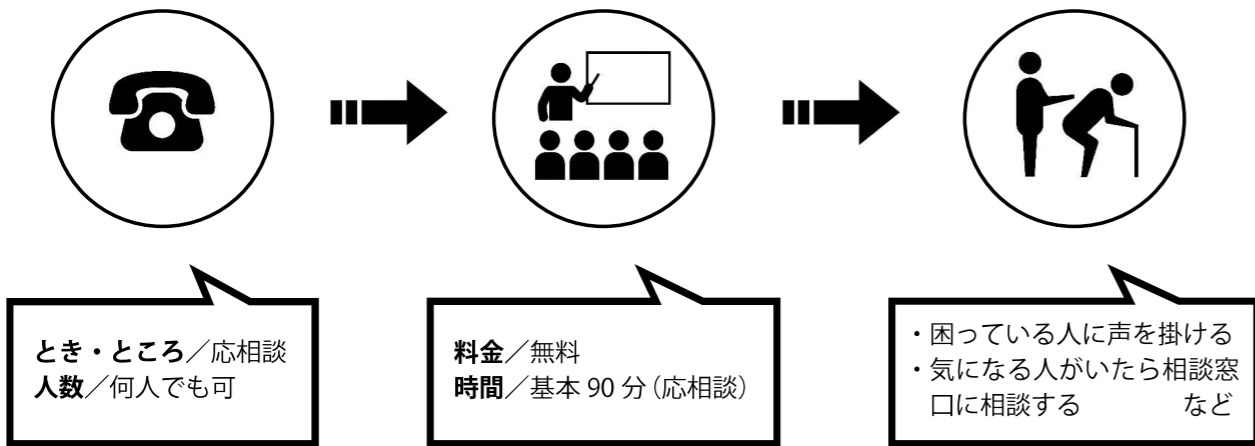
ところ／①あやめ会館 ②大仁庁舎 ③葦山福祉・保健センター

定員／各回20名

申込／開催日の1週間前までに、保健福祉・子ども・子育て相談センターまで電話で申し込みください。

「いつでも身近な会場で出前講座承ります！」 認知症サポーターになるまで

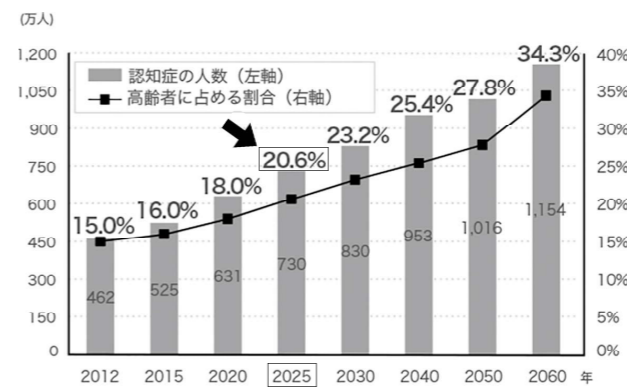
- ①地域包括支援センターに申し込む
- ②講座を受ける
- ③できることをやってみる



65歳以上の 5人に1人が認知症

厚生労働省によると、2025年には、65歳以上の5人に1人は認知症になると予測されています(左図)。

市では、介護保険の認定を受けている人のうち、何らかの認知症の症状がある人は、1,700人を超えています。



認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)
～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～の概要(厚生労働省)

まずは話をしてみませんか

ひとりでは悩んだり抱え込んだりせず、だれかに話し、一緒に解決策を考えましょう。あなたのことを理解してくれる人が必ずいます。

地域包括支援センターは認知症、介護、医療をはじめ、生活全般の悩みや疑問について相談に応じています。本人や家族でなくても、お気軽にご相談ください。

- ・長岡地域包括支援センター
☎055(946)0692
- ・葦山地域包括支援センター
☎055(949)9213
- ・大仁地域包括支援センター
☎0558(76)7311



各地域包括支援センターの皆さん